

平成17年度協働事業提案 公開調整記録

No. 10 まほろば子ども文芸大賞

と き 平成17年7月12日(火) 16:30~17:30

ところ 大和市役所会議室棟203会議室

参加者

- ・提案者：宮川さん・小川さん
- ・関係課：教育委員会指導室（丸田・中田・朽名）
- ・ ：青少年センター（相沢・岩崎）
- ・ ：社会教育課（沢田）
- ・協働推進会議委員：平塚委員、木之下委員、大野委員
- ・オブザーバー：渡辺委員
- ・事務局：市民活動課（篠田、小山、小林）

【提案者の想い・調整の主な内容】

提案者

- ・子供たちが自分のことばで表現できる場・空間を作りたい。
- ・地域おこしを言語表現で行いたい。
- ・われわれの活動は、自治体だけに頼るものではない
- ・子供、教育、子育てというターゲットで、地域交流を言語表現というツールで起こしたい。
- ・学校教育を否定するものではなくて、教育について、建設的な批判をしている。
- ・作文の指導を先生には求めている。
- ・まんべんなく応募いただく可能性のために、学校、塾、スポーツクラブなど地域協力がほしい。
- ・最初からすべてを望んでいるのではなく、われわれの活動を見ていただいて、協力できる内容からご協力いただきたい。

教育委員会指導室

- ・指導室は、学校教育、学校現場の指導をするセクション
- ・学校ごとの方針は、各学校の学校長の判断。
- ・提案内容の趣旨等が教育現場と相反するものがあると感じている。

- ・今の教育政策に疑問を持っているのかと感じ取れる。
- ・できる協力内容として考えられるのは、学校への応募 PR、情報提供ぐらいである。
- ・教育的見地のあるものに後援しており、いくつか基準がある。

青少年センター

- ・青少年の健全育成を仕事としているので、この事業の目的と違う。
- ・青少年健全育成大会で作文を募集しているが、育成大会は、青少年問題協議会が主催しており、今回の提案事業として実施するのは難しい。

社会教育課

- ・作文コンテストはで表現力に自信のある子が応募する。自信のない子どもたちをどう応募させるのか？

協働推進会議委員

- ・内容的に推進したいが、学校現場もそれぞれの立場、視点が違うので、温度差もあり難しいと感じている。少し残念。
- ・子どもにとっても、いろいろな形で認められる場があった方がよい。そういう視点からも検討して欲しい。
- ・この提案事業も子どもたちの成長を促すのひとつ。

事務局（市民活動課）

【確認事項】

- ・協働への道筋は、学校ごとの方針が各学校の学校長の判断が優先されるため難しい。
- ・指導室として協力できる可能性のあるものは、学校への応募 PR、情報提供。
- ・また、教育委員会の後援名義の使用についても考えられるが、後援申請を承認するにあたって、基準があるので、事業内容をさらに詳しく確認させていただいた上で検討させていただきたい。
- ・今回で公開調整は終了。

【記録者：市民活動課 小林】